

科目名称	成人看護学Ⅲ（回復期看護）	学年学期	単位数	時間数
		第2学年 後期	1	30
担当教員	島田 美鈴	授業に関わる 実務経験	☒ 有（看護師） ☐ 無	

【1】授業概要

疾病罹患後の回復期にある人への看護における知識、技術について、疾病罹患後の回復期の事例をとおして、看護に必要な知識・技術を TBL 等のアクティブラーニングを活用して学ぶ。

【2】学習目標

1. 疾患罹患後の回復期にある成人の特徴を理解できる
2. 代表的な疾患を抱えて生きる成人の回復期ある人の疾病からの回復あるいは障害受容への移行、依存から自立への移行、地域社会での生活への移行期を支える看護方法を学ぶ（社会資源の活用、他職種連携、チームアプローチを含む）

【3】第1看護学科ディプロマ・ポリシーとの関連性

- 1. 人間を理解し、倫理的な態度で看護を実践する力
- 2. あらゆる対象に応じた看護を実践する力
- 3. 地域の特性を看護に生かす力
- 4. 保健・医療・福祉システムにおける連携・協働できる力
- 5. 主体的に学び続ける力

【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1	疾病罹患後の回復期にある成人の理解と援助方法	講義
2	回復期における主要概念の理解	
3	循環機能障害をもつ人の事例学習：心疾患	グループワーク(TBL)
4		
5		
6		
7		
8		
9	感覚機能障害をもつ人の事例学習：頭頸部がん	グループワーク(TBL)
10		
11		
12		
13		
14		
15	試験・まとめ	

【5】評価方法

筆記試験(ミニテスト含む)50%、演習(グループ討議含む)とレポート等 50%の割合で評価する。

【6】教科書

原 三紀子:系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護(第7版) 医学書院 2025 (電子版)

【7】参考書

解剖学、生理学、病態学のテキスト
『病気が見える』シリーズ, メディックメディア

【8】受講生へのメッセージ

本科目では、TBL 学習を活用し、学生自ら学ぶ体験型・参加型の授業展開です。主体的に学ぶことを身につけられるよう積極的に授業に参加してください。事例学習では人体の構造・機能および臨床病態学での学習内容の予習・復習が必要です。